

コーディネーター

関東学院大学 理工学部

佐藤 幸也 教授

東北大学大学院情報科学研究科博士課程（後期）修了、
博士（情報科学）

農林水産業、厚生労働省等委員を歴任。

主な研究分野：

社会学（地域社会論、農村地域政策・協同組合論）

教育学（教育政策、社会化教育、食農教育論）



事例発表・パネリスト

近藤ファーム

代表 近藤 剛 氏

「東京都産野菜の都内学校給食への普及」



滝沢市学校給食食材生産供給組合

組合長 中村 奈々子 氏

「生産者・調理員・滝沢市 みんなでつなげる学校給食」



岩手県学校栄養士協議会

会長 嵯峨 潤子 氏

「学校給食を通して伝えたい地域の魅力
～地場産物を活用した取組について～」



気仙沼の魚を学校給食に普及させる会

代表 臼井 壮太郎 氏

「持続可能な水産業と魚食普及への取組について」



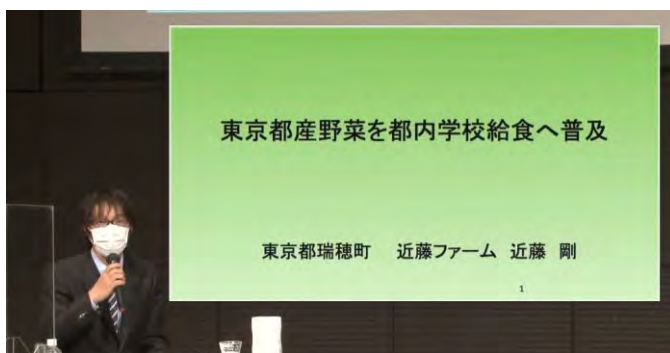
■開会の言葉／主催者挨拶

登壇者： 農林水産省 消費・安全局 参事官 前田 奈歩子 様

2021年に第4次食育推進基本計画が策定され、重点事項として持続可能な食を支える推進を掲げており、学校給食に関連したものでは、栄養教諭による地場産物にかかる指導の取り組み、学校給食における地場産物を活用した取り組みを増やすことが目標とされていることを発表。



■事例発表



近藤ファーム

活動期間：約10年

規模：東京都内10自治体、100校以上に野菜を出荷している。

<発表内容>

学校給食への参入は、価格が相場に左右されにくい、包装等の作業が発生しないため納品が簡便化できるなど利益率を大幅に上げることができたが、いくつかの課題があったため、以下の手法を導入した。

①地域ごとに適した野菜があるため、周辺地域への出荷だけでは売上に限界がある

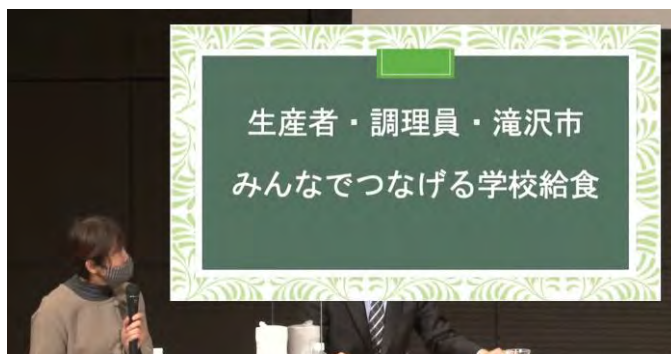
→供給エリアを拡大することで、出荷量を増やすことできた

②栄養士など給食現場との相互理解が必要

→農園見学の受け入れ、農園便りの発行、オンライン農業体験などを通して、生産現場の状況を見てもらい、栄養士側の需要のヒアリングをできる機会を作っている

③生産者からの直接納品では、供給できる範囲に限界がある

→運送業者に輸送を依頼し、いくつかの農家の野菜を混載することで輸送コストを削減



滝沢市学校給食食材生産提供組合

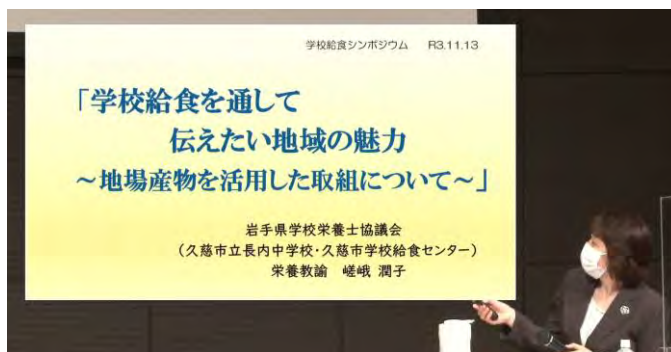
活動期間：19年

規模：7月～3月で12種類の野菜を、年間約90回程度納入

<発表内容>

2003年に生産者のボランティア活動を中心とした活動から、2010年に組合を発足し活動を強化。組合（生産者）と栄養士・調理員との意見交換会を定期的に行っており、納入に課題のあった食材について以下の方法で納入をすることができた。

- ①ズッキーニ：収穫が天候により左右されやすく安定供給が難しい
→圃場見学を開催し、生産時期、調理法について生産者から栄養士へ情報共有し、収穫量が多い時期にあわせて給食で提供
- ②ミニトマト：ヘタからの細菌検出で使用できない学校が増加している
→調理員、給食センターの職員がヘタを取る作業の対応をして給食へ提供
- ③聖護院大根：長期保存ができず、調理が手間がかかる
→調理員のスキル向上とあわせて、提供食数の少ない日に提供



岩手県学校栄養士協議会

活動期間：言及なし

規模：栄養教諭、学校栄養職員、栄養士で135名が会員、県内10地区で活動

<発表内容>

○久慈市学校給食センターの取り組み

現状2,700食を提供しており、地場産物の使用率は重量ベースで37.4%、金額ベースで33.8%。「地産地消ふれあい給食の日」を実施しており、ほうれん草、鮭、短角牛を年1回提供しており、給食の提供にあわせて農家の方が学校へ訪問し子どもたちと触れ合う機会を作っている。

○岩手県学校栄養士協議会の取り組み

県産品利用状況の調査、食生活に関する実態調査、いわて牛を利用した給食レシピの考案、岩手県学校給食会とのコラボ商品の開発などの活動を行っている。

企画・品質、安定供給、価格、納入体制の課題があるため、今後仕組みづくりが必要。



気仙沼の魚を学校給食に普及させる会

活動期間：10年

規模：2021年11月には、県内で12日間地元水産物を提供

<発表内容>

○団体の概要

東日本大震災をきっかけに、次世代を担う子供たちにエネルギー、食、人とのつながりの大切さを伝えることを目的に発足し、現在は漁業者を中心に24団体で構成されている。

○行っている活動

学校給食で使用されている魚が、外国産や乱獲されたものが多く使われていることを受け、気仙沼産の食材を給食を提供する取り組みを行っている。

主な活動内容としては、三陸の食材を使用したメニューの開発、漁師による出張授業、漁船・魚市場などの見学会などの活動を中心に、子供達に給食で食材が使用するまでに関わっている人たちについて理解してもらう取り組みを行っている。

○今後の展望

現状行っている取り組みを全国に広げ、他地域との交流や連携をより強化していく予定。

■パネルディスカッション

登壇者：コーディネーター 関東学院大学 理工学部 佐藤 幸也 教授
パネリスト 事例紹介 4団体

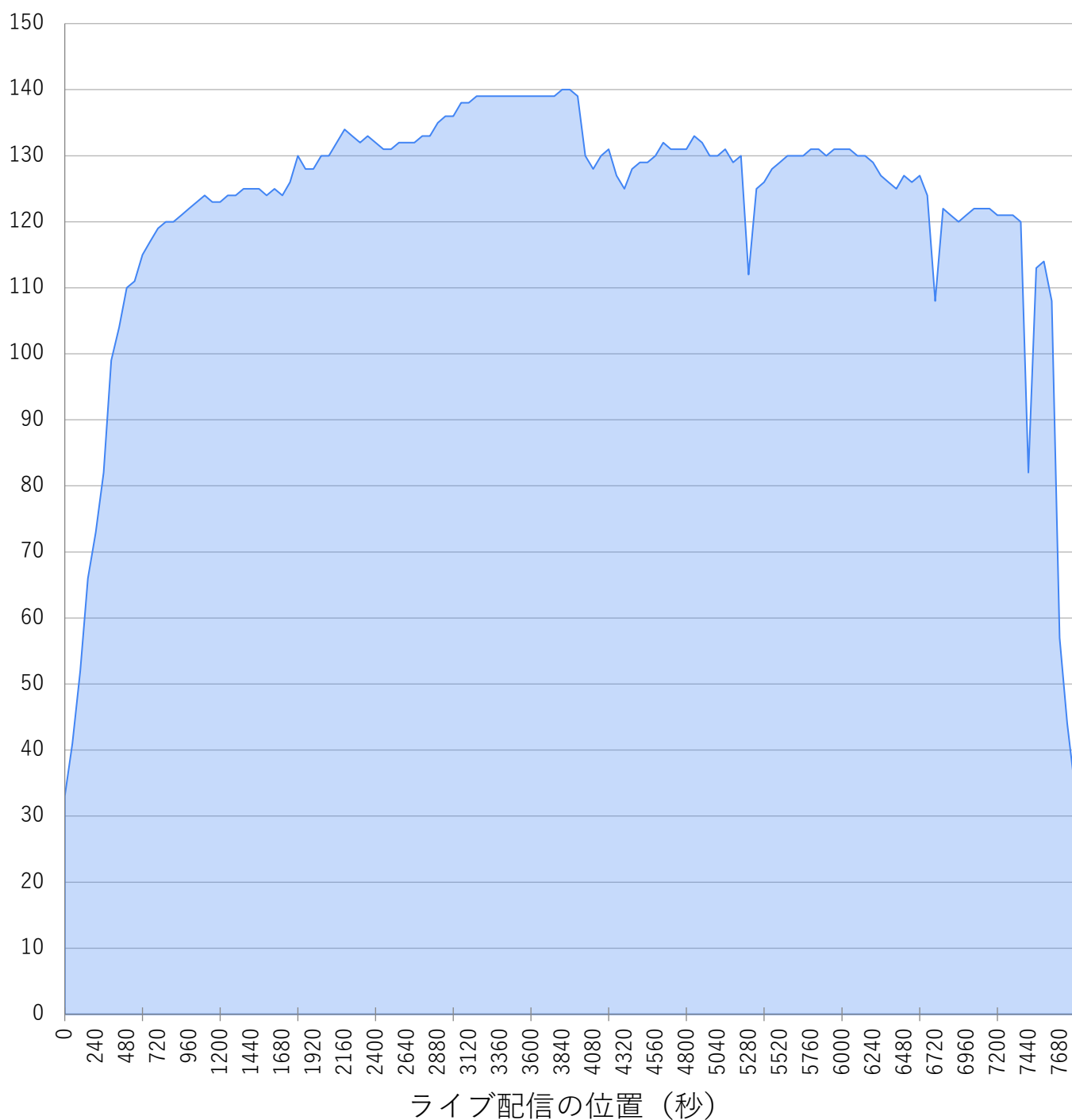


YouTube ライブ配信 視聴者数

■視聴者数 最大同時視聴者数 140名 (参加率 59.1%)
平均視聴者数 122.2名

■配信URL <https://www.youtube.com/watch?v=efjMb616OCU>

視聴者数推移



タイムスケジュール

13:00	開会の言葉／主催者挨拶（農林水産省 消費・安全局 消費者行政・食育課）
13:15	【事例発表】 50分 近藤ファーム 「東京都産野菜の都内学校給食への普及」 岩手県学校栄養士協議会 「学校給食を通して伝えたい地域の魅力 ～地場産物を活用した取り組みについて～」
13:30	滝沢市学校給食食材生産供給組合 「生産者・調理員・滝沢市みんなでつなげる学校給食」
13:45	気仙沼の魚を学校給食に普及させる会 「持続可能な水産業と魚食普及への取組について」
14:00	休憩
14:15	【パネルディスカッション】 60分 「地場産を活用する上での課題と解決手法について」
14:30	パネラー 事例紹介 4 団体 コーディネーター 関東学院大学 理工学部 佐藤 幸也 教授
14:45	東北大学大学院情報科学研究科博士課程（後期）修了、博士（情報科学） 農林水産省、厚生労働省等委員を歴任。 主な研究分野：社会学（地域社会論、農村地域政策・協同組合論） 教育学（教育政策、社会科教育、食糧教育論）
15:00	

学校給食 シンポジウム

～地場産物の使用拡大に向けて～



開催日：2021年11月13日（土）

主催：農林水産省 協力：第16回食育推進全国大会岩手県実行委員会

事例発表

近藤ファーム

東京都
瑞穂町

東京都産野菜の都内学校給食への普及

日本一農地も農家も少ない東京都、農地が全くない行政区も多数存在します。

そのなかで、東京都内北西にある西多摩郡瑞穂町にてスタッフ平均年齢二十歳代という若い力を結集し、都内広範囲の学校給食に東京都産の野菜を出荷している当園の取組みを紹介します。



滝沢市学校給食食材生産提供組合

岩手県
滝沢市

生産者・調理員・滝沢市 みんなでつなげる学校給食

「子供たちに滝沢の農産物を食べてもらいたい」という思いで、平成15年に産ける会という団体をお母さん達が立ち上げました。

その後、平成22年の生産組合結成以降、学校給食センターと意見交換し、使用品目の拡大と安定した供給に努めてきました。学校給食を通して、地場農産物と子どもたちをつなぐ活動をしています。



岩手県学校栄養士協議会

岩手県
盛岡市

学校給食を通して伝えたい地域の魅力 ～地場産物を活用した取組について～

私たち栄養士は、学校給食を通して、子どもたちに地域でとれる農林水産物を知ってもらい、自分たちの住む地域の理解につなげたいと考えています。地場産物を活用した給食とそとために市町村や生産者等と連携して行っている取組を紹介します。



気仙沼の魚を学校給食に普及させる会

宮城県
気仙沼市

持続可能な水産業と魚食普及への取組について

気仙沼の魚介類を学校給食に普及させる活動を行っています。その活動の一つで気仙沼が水揚げ量日本一であるメカジキを使用し、当会で開発した商品を宮城県内の小中学校の学校給食に提供しています。また、全国の小学校で、気仙沼の漁師の講話や、当会の web サイトを活用し、「気仙沼の魚を美味しく食べられる幸せ」をテーマに授業を行い、魚食文化を維持することの大切さを伝えています。

